

上海の婚礼

岡山県上海事務所 池田 稔

(日中経済貿易センター上海事務所 所長)

日本人と上海人の華燭の宴に初出席

中国に初めて来たのは四半世紀前の1983年、その後の大きな変化を見て、いろいろな経験をしてきたが、先日初めて知人の結婚披露宴に参加することができた。



新郎は日本人。上海の大学に語学留学し、その後、上海の日系企業に勤める。新婦は上海人。大学で日本語を学び、同じく上海の日系企業に勤める。大学時代に知り合った二人が愛を交わらせ、華燭の宴に至ったのだ。

土曜日の午後、会場は旧租界地の大きな庭のあるフランス式邸宅を利用したレストラン。純白の絨毯の上を父親に手を引かれ入場する新婦を新郎が迎え、指輪の交換、シャンパンタワー、新郎新婦の紹介、両親・友人代表の挨拶、乾杯、ケーキカット、バイキング形式の食事、お色直しの間には二人の写真が映し出され、余興のゲーム、最後には定番の新婦の両親への感謝の挨拶と花束贈呈で涙を誘い、お開きとなつ

た。一連の流れは「婚慶公司」と呼ばれるブライダル専門業者がマニュアルに則り、日本語と中国語のバイリンガルの司会がスムーズに進め、私が日本で出席した披露宴となんら変わりのないものだった。

13万に達する平均婚礼関係消費

後日、新郎と会うことができたので、気になるお値段について聞いてみた。主なところは次の通り(単位は元)。披露宴の食事は@360×90人=32,400、セレモニー関係15,000、衣装(お色直し3回)1,500、来客用たばこ1,000、引き出物チョコレート1,000、花嫁お迎え用リムジン車2,800、以上が披露宴関係で、それ以外にダイヤの結婚指輪0.5カラット20,000、結婚写真5,600、合計約80,000。本人たちは自分たちの結婚で親に負担をかけないように「ジミ婚」に努めた、とのことである。

昨年(2008年)、上海では138,981組のカップルが誕生しているが、ある調査によると最近の上海での1カップルあたりの平均婚礼関係消費は13万に達する。主なものの平均は結婚指輪20,000、ウエディングドレス2,000、タクシー3,000、記念写真5,000、披露宴67,000、婚慶公司7,000などと、各分野に広がる巨大市場が形成されているのだ。

日系ブライダル企業も進出

中国の場合、いわゆる日本の結婚式のように宗教的、あるいは儀式的なことは一般的にあまりこだわらず、ホテルやレストランなどを借り切り、「酒」に始まり「酒」に終わる的な「婚宴」がほとんどだったが、それを最近では「婚慶公司」がさまざまな演出を凝らし、コーディネートするようになった。日本の場合はホテルで披露宴を行う場合、ホテルがブライダル式をコーディネートする機会が多いが、上海の場合は多くのホテルは宴会の食事のみを提供している。日本のようにトータルコーディネートまでしなくとも、宴会だけでしっかりと儲けることができるからだ。

「'80後（1980年以降に生まれた世代）」といわれる豊かな時代に育ち、苦勞を知らない一人っ子同士のカップルが親心をくすぐりながらも思い出に残る個性的な結婚式と披露宴を競い、週末の一流ホテルにはいくつもの披露宴の案内が並ぶ。どうやら「ジミ婚」という言葉は面子にこだわる上海人には当分根付きそうにないようだ。今後、生活水準の向上、婚姻数が拡大することが予測される上海には、すでに各種ブライダル情報を提供する日系ブライダル雑誌も発行され、日系のブライダル企業も進出し、日本の豊富な経験と洗練されたサービスを武器に地元の「婚慶公司」と熾烈な競争を展開している。まもなく迎える国慶節の休暇期間中には毎年たくさんのカップルが披露宴を行い、ブライダル企業、ホテル、レストランにとっては最大の書入れ時となるのである。

その影には「あの娘は私のすべてだったの」と涙を浮かべる新婦の母親の姿があった。これだけは、いつまでも、日本も中国も同じである。

(2009年 8月)